令和８年度病害虫発生予報第８号の発表について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

《予報の概要》

作　物　名	病　害　虫　名	予想発生量
カ ン キ ツ	**貯蔵病害（緑かび病、青かび病）**	**やや多**
キ ャ ベ ツ	黒腐病	並
	べと病	やや少
	菌核病	並
	アブラムシ類	並
ブロッコリー	黒腐病	やや少
	べと病	やや少
	菌核病	並
	アブラムシ類	並
レ　タ　ス	灰色かび病	並
	菌核病	並
	斑点細菌病	やや少
	モザイク病	少
	アブラムシ類	やや少
イチゴ（施設本圃）	うどんこ病	並
	アブラムシ類	並
	コナジラミ類	並
	ハダニ類	**多**
ニ ン ジ ン	**黒葉枯病**	**やや多**
野菜、花きの	**ハスモンヨトウ**	**やや多**
共 通 害 虫	**シロイチモジヨトウ**	**やや多**
	コナガ	少
	タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）	**やや多**

太文字の病害虫：向こう１か月の間、発生状況に特に注意を要する病害虫を示す。

＊予報根拠中の記号

（＋）：発生量を多くする要因

（－）：発生量を少なくする要因

（±）：発生量が平年並になる要因

Ａ．果樹の病害虫

－カンキツ－

１．貯蔵病害（緑かび病、青かび病）

予　想　　発生地域：　県内全域

発生量　：　**やや多**

根　拠（1）　一般圃場での10月下旬の発生量はやや多かった（＋）。一部地域において、裂果のみられる果実がやや多く（＋）、浮皮・日焼け果もやや多かった（＋）。

対　策（1）　収穫10～30日前に薬剤防除を行う。

（2）　収穫、運搬、選果時には果実を傷つけないように注意し、貯蔵する前には必ず予措を行うとともに、貯蔵中は貯蔵庫内の温湿度管理に十分配慮する。

Ｂ．野菜、花きの病害虫

－キャベツ－

１．黒腐病

予　想　　発生地域：　県内全域

発生量　：　並

根　拠（1）　10月下旬の発生は平年と同様に認められなかった。（±）

（2）　11月の気象は降水量が平年並か多い予報である。（＋）

対　策（1）　薬剤防除は予防的に７～10日間隔で行う。曇雨天が続くような場合に発病を認めたら適宜防除する。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので害虫防除を徹底する。

（2）　すでに発生している圃場ではオキソリニック酸やカスガマイシンを含む薬剤を散布する。

（3）　台風など大雨や強風の後は感染が助長されるので、早めに薬剤防除を行う。

２．べと病

予　想　　発生地域：　県内全域

発生量　：　やや少

根　拠（1）　10月下旬の発生は認められなかった。（－）

（2）　11月の気象は降水量が平年並か多い予報である。（＋）

対　策（1）　圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう肥培管理する。

（2）　薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐことによって散布回数を減らすよう努める。

（3）　耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

３．菌核病

予　想　　発生地域：　県内全域

発生量　：　並

根　拠（1）　10月下旬の発生量はやや少なかった。（－）

（2）　11月の気象は降水量が平年並か多い予報である。（＋）

対　策（1）　発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。

（2）　圃場の排水を良くする。

４．アブラムシ類

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　並

根　拠（1）　10月下旬の発生量は平年並だった。（±）
（2）　綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は平年並だった。（±）
（3）　11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（－）。

対　策（1）　圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
（2）　育苗期から生育初期に薬剤を散布または灌注処理する。
（3）　抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－ブロッコリー－

１．黒腐病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　やや少

根　拠（1）　10月下旬の年内どりブロッコリーでの発生は認められなかった。（－）
（2）　11月の気象は降水量が平年並か多い予報である。（＋）

対　策（1）　薬剤防除は予防的に７～10日間隔で行う。曇雨天が続くような場合に発病を認めたら適宜防除する。害虫の食害痕等からも病原菌が侵入するので害虫防除を徹底する。
（2）　すでに発生している圃場ではオキソリニック酸やカスガマイシンを含む薬剤を散布する。
（3）　台風など大雨や強風の後は感染が助長されるので、早めに薬剤防除を行う。

２．べと病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　やや少

根　拠（1）　10月下旬の年内どりブロッコリーでの発生は認められなかった。（－）
（2）　11月の気象は降水量が平年並か多い予報である。（＋）

対　策（1）　圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう肥培管理する。
（2）　薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐことによって散布回数を減らすよう努める。
（3）　耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

３．菌核病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　並

根　拠（1）　10月下旬の年内どりブロッコリーでの発生は平年と同様に認められなかった。（±）
（2）　11月の気象は降水量が平年並か多い予報である。（＋）

対　策（1）　発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
（2）　圃場の排水を良くする。

４．アブラムシ類

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　並

根　拠（1）　10月下旬の発生量は平年並だった。（±）
（2）　綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は平年並だった。（±）
（3）　11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（－）。

対　策（1）　圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
（2）　育苗期から生育初期に薬剤を散布または灌注処理する。
（3）　抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－レタス－

１．灰色かび病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　並

根　拠（1）　10月下旬の12月どりレタスでの発生は平年と同様に認められなかった。（±）
（2）　11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（＋）。

対　策（1）　発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
（2）　圃場の排水を良くする。
（3）　薬剤散布は株元を中心に、丁寧に行う。
（4）　苗床からの持ち込みも多いので、苗床での薬剤防除を実施する。
（5）　耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

２．菌核病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　並

根　拠（1）　10月下旬の12月どりレタスでの発生は平年と同様に認められなかった。（±）
（2）　11月の気象は降水量が平年並か多い予報である。（＋）

対　策（1）　発病株は早期に発見し、抜き取って圃場外に持ち出すなど適正に処分し、直ちに防除を行う。
（2）　圃場の排水を良くする。
（3）　灰色かび病防除に準じて対策を行う。
（4）　発生の多い圃場では夏季に水田化する。

３．斑点細菌病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　やや少

根　拠（1）　10月下旬の12月どりレタスでの発生は平年と同様に認められなかった。（±）
（2）　11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（＋）。

対　策（1）　育苗は風当りの弱いところで行い、できるだけ傷をつけないように管理するとともに、軟弱徒長にならないよう注意する。
（2）　圃場の排水を良くする。
（3）　べたがけ被覆しているところでは、降雨が続くと多発するおそれがあるので注意する。

(4) 強風を伴う降雨が予想される場合は予防的に薬剤防除を実施する。また、結球期から収穫期にかけて発病が増加するので、下葉に発生が見られたら早めに防除する。

4．モザイク病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　少

根　拠 (1) 10月下旬の12月どりレタスでの発生は認められなかった。（－）
(2) 10月下旬の12月どりレタスでのアブラムシ類の発生は認められなかった。（－）
(3) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は平年並であった。（±）

対　策 (1) 発病株は早期に抜き取り適正に処分する。
(2) 育苗期から生育初期にアブラムシ類を対象に薬剤を散布または灌注処理する。

5．アブラムシ類

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　やや少

根　拠 (1) 10月下旬の12月どりレタスでの発生は認められなかった。（－）
(2) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は平年並であった。（±）
(3) 11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（－）。

対　策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 育苗期から生育初期に粒剤等を施用する。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－イチゴ（施設本圃）－

1．うどんこ病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　並

根　拠　　10月下旬の発生量は平年並であった。（±）

対　策 (1) 薬剤防除は予防的に行い、発生を認めた場合は５～７日間隔で行う。
(2) 耐性菌の発生回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2．アブラムシ類

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　並

根　拠 (1) 10月下旬の発生量はやや少なかった。（－）
(2) 綾歌郡綾川町の黄色水盤での10月のアブラムシ類の誘殺数は平年並であった。（±）
(3) 11月の気象は気温が高い予報である。（＋）

対　策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 抵抗性の発達回避のため、同一系統薬剤を連用しない。

３．コナジラミ類

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　並

根　拠（1）　10月下旬の発生量は少なかった。（－）
　　（2）　11月の気象は気温が高い予報である。（＋）

対　策（1）　圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
　　（2）　茎葉が繁茂していると薬剤が十分に到達しにくい場合があるので、葉かぎを行い丁寧に散布する。
　　（3）　抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

４．ハダニ類

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　**多**

根　拠（1）　10月下旬の発生量はやや多かった。（＋）
　　（2）　11月の気象は気温が高い予報である。（＋）

対　策（1）　人による持ち込みを回避するため、発生圃場に入った着衣のまま未発生圃場に立ち入らない。
　　（2）　圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
　　（3）　発生が局所的な場合には、気門封鎖剤のスポット散布を行う。
　　（4）　抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

－ニンジン－

１．黒葉枯病

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　**やや多**

根　拠（1）　10月下旬の発生量はやや多かった。（＋）
　　（2）　11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（＋）。

対　策（1）　肥料切れに注意し、株の勢いが衰えないように栽培管理する。
　　（2）　薬剤防除は予防的に実施し、初期感染を防ぐことによって散布回数を減らすよう努める。

－野菜、花きの共通害虫－

１．ハスモンヨトウ

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　**やや多**

根　拠（1）　10月下旬の発生量は、キャベツではやや少なく（－）、レタスではやや多く（＋）、ブロッコリーでは平年並（±）であった。
　　（2）　防除員報告では、発生のやや多い地区があった。（＋）
　　（3）　フェロモントラップでの10月の誘殺数はやや少なかった。（－）
　　（4）　11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（－）。

対　策（1）　圃場周辺の雑草は増殖源となるため、発生前からの除草に努める。
　　（2）　若齢幼虫は集団で食害するため、被害葉は表皮だけを残して白色になっているので、本圃の果菜類等ではこれらを発見したら摘葉するとともに薬剤防除を行う。
　　（3）　施設の出入口やサイド換気口等の開口部に防虫ネットを張り、侵入を防止する。
　　（4）　中老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、体長１cm以下の若齢幼虫期に薬剤

防除を行う。
(5) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2．シロイチモジヨトウ

（令和８年７月８日付け病害虫発生予察注意報第４号発表）

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　**やや多**

根　拠 (1) 10月下旬の発生量は、ブロッコリーでは多く（＋）、青ネギではやや多かった（＋）。
(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの10月の誘殺数は平年並であった。（±）
(3) 11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（－）。

対　策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 中老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、初期の食害発生に注意し、体長１cm以下の若齢幼虫期に薬剤防除を行う。
(3) 令和６年度に実施した薬剤感受性検定では、ジアミド系薬剤（IRAC コード：28）に対する感受性が低くなった個体群が存在したことから、防除で効果が見られない場合は同系統薬剤の使用を控える。
(4) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

３．コナガ

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　少

根　拠 (1) 10月下旬の発生はキャベツでは平年と同様に認められず（±）、ブロッコリーでは発生が認められなかった（－）。
(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの10月の誘殺数はやや少なかった。（－）
(3) 11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（－）。

対　策 (1) 苗床は防虫ネットで被覆し、成虫の侵入防止対策を講じる。
(2) 定植時に灌注処理や粒剤施用するとともに発生初期から薬剤防除を行う。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

4．タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

予　想　　発生地域：　県内全域
　　発生量　：　**やや多**

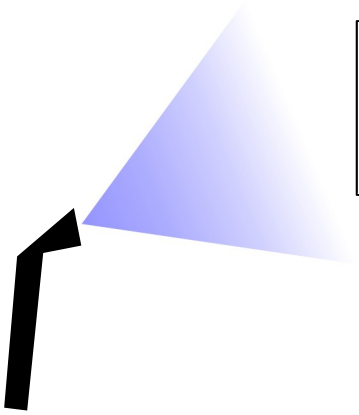
根　拠 (1) 10月下旬の発生はキャベツとレタスでは平年と同様に認められず（±）、ブロッコリーでは平年並であった（±）。
(2) 綾歌郡綾川町のフェロモントラップでの10月のタバコガ類の誘殺数は平年並であった。（±）
(3) 防除員報告では、フェロモントラップでの10月のタバコガ類の誘殺数は多かった。（＋）
(4) 11月の気象は気温が高く（＋）、降水量が平年並か多い予報である（－）。

対　策 (1) 圃場内及び圃場周辺の除草に努める。
(2) 花蕾や生長点を食害するので、被害が見られたら直ちに薬剤防除を行う。
(3) 抵抗性の発達回避のため、同一系統の薬剤を連用しない。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう

病害虫防除所 インターネットホームページ

URL: https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichubojo/index.html



近隣農地の作物等や住宅地等での農薬飛散防止の注意が必要です。
風の状況を確認し、飛散の恐れがあるときは散布作業を中止しましょう